

奄美群島の観光・交流・情報発信の拠点、鹿児島県奄美パークからのお便りです。

鹿児島県

Amami Park Public Relations vol.26

FREE

ご自由に
お持ちください

奄美パークだより



奄美パーク開園 20周年記念

奄美群島 伝統芸能の祭典 “島々の饗宴” 知名町 濑利覚獅子舞保存会

20年の歴史、そしてその先へ

奄美群島の自然は人々と共にあり、生活は自然との共生の中で営まれています。つまり、奄美は人間そのものも生態系の一部をなし、自然是文化そのものだ、ということです。

だから、例えばシマ唄ひとつとっても、山谷深い南部のヒギヤ唄はコブシをきかせて抑揚大きく、平地の多い北部のカサン唄は平たい調子で唄われるなど、自然とシンクロした文化が育まれてきました。しかも、シマによつて、楽器のつくりも言葉も習慣も実際に変化に富んだ多様性に満ちています。

文化は生きて動いています。この20年間の激動の中で、不易流行、何を護り何を発展させていくのか、奄美パークは地域文化の情報発信拠点としての使命を追い続けてきました。

20周年記念の「島々の饗宴」ではその集大成を開きました。さあ、次の世代に向けて、今度はどんな新しい一步を踏み出すか、これから奄美パークにもご期待ください。

鹿児島県奄美パーク園長

田中一村記念美術館館長

宮崎 緑



目次 | CONTENTS

鹿児島県奄美パークだより vol.26

- P04 奄美パーク開園 20 周年記念式典
- P06 奄美パーク開園 20 周年記念
奄美群島 伝統芸能の祭典 “島々の饗宴”
- P10 奄美の郷の楽しみ方
- P12 田中一村記念美術館ニュース
- P14 一村さんへの手紙
- P15 奄美パーク応援隊・わきゃステージのご案内
- P16 奄美パーク利用のご案内



奄美パーク開園 20周年 記念式典

令和4年10月30日



主催者挨拶 宮崎 緑 園長

2001年（平成13年）9月に開園した奄美パークは、2021年（令和3年）に開園20周年を迎えました。コロナ禍のため延期となっていた記念式典及び記念イベント“島々の饗宴”を、2022年（令和4年）10月に開催しました。

奄美パーク開園20周年記念式典は、開園当時の式典にも参加した地元の節田小学校アマンディー太鼓による元気いっぱいの太鼓の響きで幕を開けました。

宮崎緑園長による主催者挨拶のあと、塩田鹿児島県知事や来賓各位より、挨拶、祝辞をたまわりました。

続いて、宮崎園長が「奄美パーク20年の歩み～今日までそして明日から～」と題し、入館者の推移や、改修工事・展示内容のリニューアルなどをスライドで紹介しました。また、平成15年、奄美群島日本復帰50周年の際、当時の天皇皇后両陛下による御視察の様子や、田中一村作品を海外へ紹介する取組などについて語つて下さいました。

祝い唄を披露して下さったのは、喜界島出身、唄者の川畑さおりさんです。

「朝花節」「俊良主節」など伝統の島唄を伸びやかな美しい声で披露。「喜界や良い島」では、軽やかなテンポに合わせて出席者が踊り出す一幕もありました。



節田小学校アマンディー太鼓



川畑 さおりさん



締めは六調で



作家・博物学者 荒俣 宏

記念講演 うたの本源をもとめて 「しまうた」の靈威

最後の締めは奄美らしく「六調」で、一同にぎやかに歌い踊り、開園20周年を祝いました。

荒俣さんは、50年前から何度も奄美大島を訪れていたということで、奄美の島唄や文化について独自の観点から、非常に興味深い講演をしていただきました。

指笛や踊りが入るのは、島の音楽が観賞するものではなく参加するもので、神様への願い事を伝えるための手段だったのではないか、とのこと。

島唄には、古来の日本文化が残っており、明治時代に民俗学者たちが気づき、こぞって研究を始めたそうです。そして、戦後、奄美群島が日本に復帰して10年、「島唄」「南の声」を通して、現代の人々の関心も集めた、とのこと。



荒俣 宏さん

日本文化における「南の声」をキーワードに、昭和38年の紅白歌合戦に田端義夫の「島育ち」をはじめ四曲も奄美の「ブルース」では、美しい楽曲が歌われたことを紹介。その中の一曲、三沢あけみの「島のブルース」では、指笛の音が目新しく、ラジオで「あのピーピーいってる歌」というリクエストが多数来たそうです。

指笛や踊りが入るのは、島の音楽が観賞するものではなく参加するもので、神様への願い事を伝えるための手段だったのではないか、とのこと。

島唄には、古来の日本文化が残っており、明治時代に民俗学者たちが気づき、こぞって研究を始めたそうです。そして、戦後、奄美群島が日本に復帰して10年、「島唄」「南の声」を通して、現代の人々の関心も集めた、とのこと。

また、奄美出身の民俗学者、茂野幽考の名を挙げ、「あまり知られていないが、民俗学の巨人、柳田国男と並ぶくらい面白い本を書いており、特に島唄の物語をわかりやすく解説しているのが興味深い」と紹介しました。

記念講演は、作家・博物学者の荒俣宏さんが「うたの本源をもとめて「しまうた」の靈威」と題して行いました。

荒俣さんは、50年前から何度も奄美大島を訪れていたということで、奄美の島唄や文化について独自の観点から、非常に興味深い講演をしていただきました。

奄美パーク開園 20周年記念

奄美群島 伝統芸能の祭典

島々の饗宴

令和4年10月29日・30日

奄美群島の各市町村を代表する伝統芸能が一堂に会し、継承してきた歌や踊りを披露。
奄美パーク全体がお祭りのような雰囲気で盛り上がりました。

参加団体

奄美大島

大和村 大和浜棒踊り保存会
宇検村 芦検民謡保存会・藤原梨月香
奄美市 浦上町内会
瀬戸内町 油井豊年踊り保存会

沖永良部島

和泊町 国頭芸能保存会
永嶺字収納米保存会
知名町 瀬利覚獅子舞保存会

喜界島

喜界町 奄美芸能島唄研究会・続六調太鼓

徳之島

天城町 西阿木名民謡保存会
伊仙町 前野民謡保存会
徳之島町 上面縄ションマイカ同好会
手々民芸保存会

与論島

与論町 与論十五夜踊り保存会



大和浜棒踊り保存会

イベントのトップを飾ったのは、大和村の「大和浜棒踊り」です。棒踊りは明治35年ごろ創始され、毎年の豊年祈願祭で、集落の若者によって披露されました。歌に合わせて、四人一組の男性が六尺棒や鎌を打ち鳴らし踊ります。どんどんスピードアップしていく勇壮果敢な踊りは、武術を見ているような迫力がありました。

続いて、天城町より西阿木名民謡保存会が八月踊り三曲と、正月の年の祝いで演じられる芝居立ての「ハマヤキトーシ」を披露しました。登場人物の釣り人を男子中学生三名が演じ、ユーモラスなセリフや踊りに客席からは笑いが起き、大きな鯛を釣り上げる場面では、盛大な拍手が送られました。

同じく天城町の前野民謡保存会が「田植え唄」を披露。平成23年にはたんばを復活させ実演をしながらの田植えも継続しているそうです。



西阿木名民謡保存会

※ 龍郷町は出演予定団体が都合により辞退となりました。

男性陣は蓑や笠を身に着け太鼓を打ち、赤ちゃんの人形を背負った女性陣が田植えの振りを踊ります。田を耕す牛や、神様に捧げる焼酎をちょこっと飲んでしまうお調子者なども登場し、楽しく盛り上がりいました。

宇検村からは、田検中学校2年生の藤原梨月花さんが島唄を披露。宇検村の地名が歌詞に出てくる「黒だんど節」など三曲を歌いました。



前野民謡保存会

同じく宇検村の芦検民謡保存会「芦検稻すり踊り」は、別名「アンマ踊り」とも呼ばれ女性のみで踊ります。糲(ザル)、鍬など、古くからの本物の道具を用い、衣装も古い着物の端切れを用いて昔ながらの作業着を作っているそうです。収穫した稻を米にする様子などを軽やかに踊りで表現しました。



芦検民謡保存会

約460年前に創始されたと伝えられている与論町の「十五夜踊り」は、地主神社での奉納時と同じように「嶋中安穩」の大旗を立てるところから始まりました。沖縄風の二番組が黒い三角頭巾の独特の衣装で踊り、また、大和風の一番組は「室町時代のコント」とあらすじを紹介し、ユーモラスな仮面劇を披露しました。

伊仙町からは「上面縄ショーンマイカ同好会」の皆さんが登場。大正の頃から踊られ、



与論十五夜踊り保存会

ルーツは富山のおはら節ともいわれています。男女の掛け合いで、輪になつて踊り、どんどんテンポが速くなり盛り上がりります。

16歳から82歳まで幅広い年代のメンバーで、二年前に新調した衣装を初めて披露することができるということで、張り切って踊つて下さいました。



上面縄ショーンマイカ同好会

喜界町の奄美芸能島唄研究会は、高校生三名を含む四名の女性が、島唄を披露しました。「朝花節」や「イトウ」を合奏し、それぞれが一曲づつ、緊張しながらも得意な歌を歌いました。最後は「喜界や良い島」を披露、続六調太鼓の皆さんのが踊りが華を添えました。また、「六調」では、続六調太鼓の皆さん五名が太鼓を披露、会場の皆さんも踊り出し、にぎやかに締めました。

和泊町からは国頭芸能保存会の皆さんが出場。「五色ヒンヨー」は、五色の手ぬぐいを好きな人にあげるという歌詞で、日の丸の扇子をたたいた。

同じく和泊町から永嶺字収納米保存会の皆さんが400年以上伝わるという舞を披露しました。薩摩の支配下で収穫した米が没収された苦難の歴史を表している踊りで、小・中学生も含めた男性たちがキリリと白い鉢巻姿で、太鼓や鉦を打ち鳴らし、勇壮な踊りを披露しました。



国頭芸能保存会

奄美大島の「浦上町内会」の皆さんの「八月踊り」です。浦上には平家の武将平有盛をまつる神社があり、八月踊りにも有盛を思わせる独特の歌詞があるそうです。奄美大島北部の伝統で女性が太鼓を叩き、60～70代の総勢32名がステージいっぱいに輪を描き踊り出しました。ゆっくりしたテンポから、中休憩をはさみつつ、どんどんテンポアップし、40分間を踊り通しました。

2日目は、徳之島町手々民芸保存会の皆さんによる「ムチタボリ」で幕を開けました。お盆の最後に踊られ、御先祖さまに



奄美芸能島唄研究会・続六調太鼓



永嶺字収納米保存会



浦上町内会 八月踊り

お餅を持たせる風習から「ムチタボリ（お餅を下さい）」と呼ばれるようになったそうです。男性は、まるでアラブの民族衣装のような白い布を頭からかぶるのが特徴で、これはノロの衣装を真似て始まったそうです。女性が内側、男性が外側の二重の輪を作り、テンポの良い踊りを披露しました。

続いて、知名町「瀬利覚獅子舞保存会」の皆さんが登場しました。

ことを祝う総踊りで締めくくられました。

イベントのトリは、瀬戸内町油

井の「豊年踊り」です。最初の踊りは、素朴な紙の仮面をかぶつた男性がユーモラスな動きで農作業をする様子を踊る「稻刈り」。

次に、女性陣による「稻摺り」は、色彩豊かな衣装で、赤い長い布を振りながら踊り、舞台が華やぎました。最後は、締め込み姿の力士たちが、土俵を白に見立てて、自分の肘を杵に見立てた「米つき」を、迫力のある大きな動きで見せました。



手々民芸保存会



瀬利覚獅子舞保存会

奄美パーク YouTube チャンネル

“島々の饗宴”を動画でご覧いただけます。



1日目 (10/29)



2日目 (10/30)



油井豊年踊り保存会



各市町村の特産品販売コーナーも、たくさんのお客様でぎわっていました。
ありがとうございました！



奄美の郷の楽しみ方

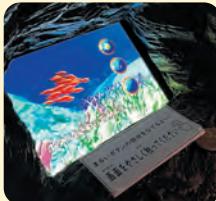
「奄美の郷」は、奄美の文化や歴史、自然を体感できる展示施設です。

受付などお客様をご案内しているパークアテンダントさんの日報から、お客様が楽しんでいる様子の一部を紹介します。スタッフも気づかなかったような面白いポイントがたくさん！ぜひ遊びに来てその目で確かめてみてくださいね！



総合展示ホール（有料ゾーン）

奄美の自然や人々の暮らし、文化を模型や映像で紹介しています。



大人気のコーナーです。ボタンを押すと…？

8月△日

小学生の兄弟は何度も遊んでいました。先に進んでいた御両親や祖父母なども呼んで驚かせており、みなさん楽しそうでした。



5月△日

小学校の修学旅行で、先生が数人の生徒を誘って見にきました。子どもたちは驚いたり笑ったり、先生は喜んで写真を撮っていました。

模型は本物そっくり！

6月△日

アイノコ（丸太船）の中の魚を見たお客様は「こんなに沢山大物が釣れたら毎日海に出たくなるよね」とお連れ様とお話をされていました。



古い貴重な写真や映像もご覧いただけます。

7月○日

祖母がユタ（奄美の民間信仰）のスクリーンに映っているのでパークに来たと2人の男性が話してくれました。「亡くなつて何年も経っているけれど、まだ寂しい」とおっしゃいました。

奄美シアター（有料ゾーン）

「森と生きる祈りの島」「奄美群島 島めぐり」「亜熱帯の輝き」の3作品を上映しています。



5月△日

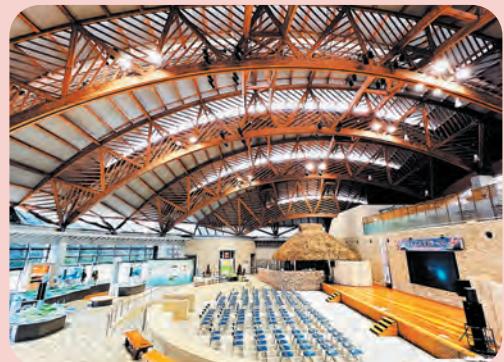
「横についているランプはフナムシをイメージしているんですか？」と尋ねられたので、昔の人がソテツの葉で作っていた虫かごをイメージしていることを伝えました。

8月○日

「奄美群島島めぐり」を御覧になった御家族は「歳の数の星砂かあ、じいじは80個探すの大変だね」「奄美大島にも星砂あるのかな？」などと楽しそうにお話をされました。

※映像中で、与論島百合ヶ浜では「歳の数だけ星砂を探すと幸せになれる」という言い伝えを紹介しています。

建物について

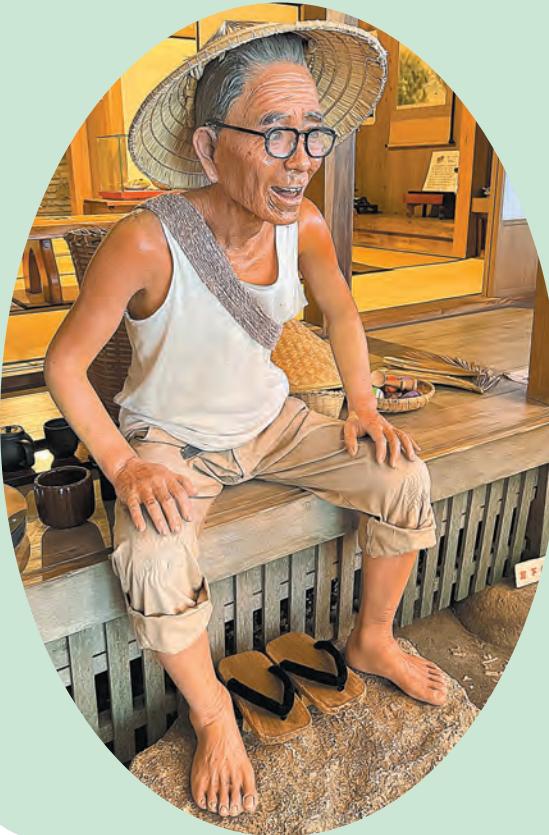


7月×日

天井の染に興味をお持ちで、いろいろ質問されてきた男性がいました。リュウキュウマツの集成材を使い、ソテツの葉をイメージしてデザインされていることや、端にしか鉄筋が入っていない事などを伝えました。

※白いドーム状の屋根は、大型の2枚貝シャコガイをモチーフにしています。

あまじいのいる古民家



瀬戸内町古志集落から移築した古民家です。
懐かしい遊び道具もあり、昔話も聽けますよ。

5月○日

リピーターの年配の女性「奄美に来ると必ずおじいちゃんに会いに来ます。初めて見た時は、声をかけていいのかなと思ったけれど、お人形さんだったのでびっくりしました」



12月△月

小さい男の子は、あまじいに手を合わせて一礼し、口の中や鼻の中に手を入れたり顔を近づけてにらめっこしていました。とても人懐こくかわいかったです。

5月×日

古民家で20分ほどすごされたお客様は、いろいろの昔話を聞いていたようで「一番目の話が面白かった」とおっしゃっていました。



八月踊りコーナー

奄美の伝統芸能をゲーム感覚で体験



8月△日

今日は八月踊りコーナーが人気があり、グループのメンバー同士で競い合い楽しんでいました。

8月○日

八月踊りが相当楽しかったかと思われます。若い女性グループは踊りながら帰つていきました。

11月◇日

八月踊りコーナーで一位を取った女の子はとても喜んでいましたが、次に踊ったおじいちゃんが一位を更新したので、その後怒りながら2回ほど踊っていました。

アイランドインフォメーション

観光地や食、島唄などを各島々ごとに紹介



8月○日

地元笠利町の小学生の女の子が自由研究のために来園、沖永良部島について、タッチパネルを使って情報収集をしていました。

5月◇日

「島唄を聴きたいんです」というお客様を御案内しました。「昨夜は島踊りや島唄を体験して、なかなか楽しかった」とのこと。お客様は島唄を聴きながら涙を流されていました。

田中一村の未公開の色紙を発見、美術館にて展示されました

令和4年9月～12月 秋の常設展



記者発表の様子 福田恵信住職（右）と宮崎緑館長

令和3年に奄美市内の真宗大谷派大島寺で新たに発見された未発表の一村の色紙9枚が、令和4年秋の常設展にて初公開されました。

大島寺の前住職、故福田恵照さんの息子で、現住職の恵信さんが書斎を整理していたところ、古びた茶封筒に入った状態で発見。

「昭和35年頃 画ノベンキヨウヲシナサイト見本ヲ書イテクレタ 田中一村（孝）ノ画」と覚書が貼られていました。

恵照さんは、生前、一村との交流があり、生け花の話をしたり、郷土料理などでもてなしたりしていたそうです。

一村の署名等はありませんでしたが、県田中一村記念美術館特別企画運営委員会で協議した結果、一村の作品と認められました。

色紙は風景画7枚と、花などを描いた2枚。このうち「高倉遠望」と「茶花と鳥瓜」の2枚は奄美で描かれた作品と認定されました。また、9枚のうち6枚は様々な「南画」の技法で

描かれ、絵の勉強の参考にという一村の思いが伝わります。

秋の常設展には、新発見の作品を目当てに多くの地元の方々も訪れてくださいました。当美術館では、作品を寄託していただき、今後も展示の場を設けていく予定です。

大島寺で発見された色紙

- 高倉遠望 たかくらえんぽう
- 茶花と鳥瓜 ちやばなとからすうり
- 月に女郎花 つきにおみなえし
- 農村風景 仿蕪村 のうそうんふうけい ほうぶそん
- 倚杖柴門間寂 仿夏珪 いじょうしばもんもんじやく ほうかいけい
- 霊山図 仿米海嶽 れいざんず ほうべいかいがく
- 千山競秀 仿鉄斎 せんざんきょうしゅう ほうてつさい
- 山水図 さんすいず

田中一村記念美術館では、年に4回、一村作品の展示替えを行っており、季節に合わせた作品をお楽しみいただけます。

第21回 奄美を描く美術展

令和4年10月23日（日）～11月20日（日）



大賞作品 「継承のカタチ①」 嶋田敏夫（京都府）

開館当初から開催され、21回目を迎えた同美術展には、「奄美」をテーマに全国から106点の作品が寄せられ、大賞には京都府の嶋田敏夫さんの水彩画「継承のカタチ①」が選ばされました。

審査委員長を務めた安達博文氏（富山大学芸術文化部名誉教授）は「奄美在住の方が日常の中で感じたことを描いた作品から、島外の方が南国のイメージを深めながら描いた作品など、様々な視点や異なる切り口から描かれた素晴らしい作品がたくさん集まっていた」と評しました。

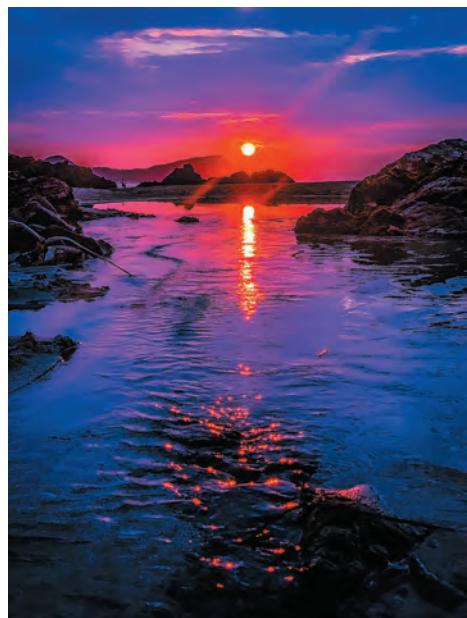
第1回 奄美を写す写真展

令和4年5月21日（土）～6月5日（日）

初開催となった同写真展には、全国から211点の応募があり、大賞にはROCKY ARAKIさんの「ラッセンがやってきた」が選ばされました。

スマホや携帯でも撮影可、本人による写真の加工を可としたため、自由度の高い、個性豊かな作品が揃いました。また、事前に開催した「小中学生のための写真講座」に参加した子どもたちも、様々な風景や自然を切り取った作品を応募してくれました。

審査委員長を務めた武部守俊氏（芸術写真家）は、「どの作品も、奄美的香りのようなものが伝わってくる、心に沁み込んでくるような写真ばかりでした。」と評しました。



大賞作品 「ラッセンがやってきた」 ROCKY ARAKI

令和5年5月3日（水・祝）～5月28日（日）「第2回 奄美を写す写真展」開催予定
詳細は田中一村記念美術館まで

あなたの想いを、一村さんへ

一村さんへの手紙

来館者が田中一村への想いをつづる、「一村さんへの手紙」。その一部を紹介します。



私が一村さんを知ったのは5年前、高校3年生の頃でした。

学校に置いてあった画集をふと手に取ったことをきっかけに私の中で田中一村という存在が偉大なものになりました。

元々、植物が好きで描いていたこともあります。

一村さんの絵を見て、なんて透き通った生き生きとした植物だろうと感動しました。

5年経つてようやく奄美に来ることができ、初めて実物を拝見しました。奄美旅行の最後に一村さんの絵を見て「この景色がこの感情を芽生えさせたのだと思います。

共有できた感覚がありました。一村さんの動植物の巧みな表現がこの感情を芽生えさせたのだと思います。

私が今回見た奄美の景色を、昔の時代の画家の絵によって、時代を超えてリンクした感覚は初めてでした。

貴重な体験を、そしてすばらしい作品を残していただきありがとうございました。尊敬しています。作品をありがとうございます。

又、来ますね。

(23歳／長崎県)

とうとう、とうとう、奄美に来れたよ。

40年近く前、横浜高島屋の展示会場で一枚一枚の絵を見、キャプションを読み、展示室にも関わらず、涙が止まりませんでした。

経済的にも恵まれずとも、紺の仕事をして、必要な色の絵具を必要なだけ買う生活で描いた絵。

「エンマ大王への土産」の絵の前では立ちすくみました。

こんな立派な美術館が出来、一村さんのお気持ちはいかがでしょう。

さきほどアダンの種を2個拾いました。庭に育ててみたいと思います。一村さんのアダンが芽を出したらこんな嬉しいことはありません。

(49歳／鹿児島県)

とりのくふうや、いろいろなくふうが見られてよかったです。

ぱくも一村さんみたいにえがうまくなりたいです。

(8歳／茨城県)

一村さんへ

あなたはもういないのにお手紙が書けるなんてすてきですね。絵に会いたくて又奄美を訪れました。

外には大好きな月桃の花もたくさん咲いています。あなたが残した絵と同じように。

以前訪れた時とは自分の環境も変わりました。世界さえ変わってしまいました。

でも月日は流れ物事は変化していくものです。

この次どのような自分でいるのか楽しみです。又、絵をみにきます。

(57歳／東京県)



一村さんへの手紙を書く

田中一村記念美術館の休憩コーナーまたは入口総合案内に記入スペースを設けています。また、奄美パーク公式サイトで毎月一部の手紙を紹介しています。



公式ウェブサイト
一村さんへの手紙

奄美パーク応援隊

応援隊の応募と活動内容



証明書を発行



申請書を提出



応募資格をチェック

応援隊の証明書を発行します。

行います。登録日から年度末まで有効

顔写真（4cm×3cm程度）を添えて公式ウェブサイトまたは奄美パークにて配布している申請書を提出

- 各自で来園可能な成人
- 年2回以上活動が可能
- 奄美の自然・文化に興味がある

奄美をこよなく愛する、「奄美パーク応援隊」は様々なおもてなしの活動を行っています。

奄美パーク応援隊は地域の方々によるボランティアグループとして平成15年から活動しています。約50人の隊員が加入しており、それぞれの得意分野を生かして、奄美の魅力を島内外の方々に伝えたり、園内の美化活動に取り組んでいます。

応援隊とは

❶ 展示案内

奄美の郷で歴史や文化、島の暮らしを紹介します。また、田中一村記念美術館では鑑賞のポイントを説明します。

❷ 園芸活動

月に1度、園地の環境を考慮しながら植栽による島の情景を再現する展示活動を行います。

❸ その他

奄美パーク主催のイベントや業務等への参加のほか、園内の清掃活動を行います。

❹ 手熟の披露

島に伝わる遊びやモノ作りを披露します。六調三線では毎月第2・第4月曜日に練習とバスのお見送りを行います。



わきやステージ in パーク

シマ唄や踊りなどを日頃から練習している個人や団体の成果発表の場所として、奄美パークのステージを無料提供する事業です。

◆事業の対象

出演者の過半数が奄美群島内に在住する場合に限り、事業の対象となります。

◆詳細

- 個人、団体どちらでもOK。ジャンル不問です。
- 会場使用料、音響機器等の使用料が無料になります。
- ポスター、チラシ等の配布をお手伝いします。
- 御希望により奄美パーク YouTube チャンネルにてライブ配信を行います。

◆応募

- 利用状況確認のため、希望日時、内容をお電話にてお知らせ下さい。
- 仮予約後、申請書類の提出をお願いします。



応援隊・わきやステージに関するお問い合わせ
奄美パーク事業課 0997-55-2333

奄美パーク利用のご案内

有料ゾーンの観覧料（個人・団体）

お得です！

() 内は 20 名以上の団体料金 | 単位：円

区分	共通観覧料	奄美の郷	田中一村記念美術館
大人	630 (500)	310 (240)	520 (410)
高校・大学生	420 (330)	220 (170)	370 (290)
小・中学生	310 (240)	150 (120)	260 (200)
小学生未満	無料	無料	無料

- ※ 休園日は第1・3水曜日（祝日の場合は翌日）です。ただし、4月29日～5月5日、7月21日～8月31日、12月30日～1月3日の期間中は開園します。
- ※ 有料ゾーンは、奄美の郷の総合展示ホール及び奄美シアターと、田中一村記念美術館の常設及び特別展示室です。その他は無料でご観覧いただけます。
- ※ 身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方及び付き添いの方は減免措置がありますので、お申し出ください。



年間パスポート

大人 1,260 円 高校・大学生 840 円 小・中学生 620 円

奄美パークでは2回分の観覧料で1年間に何度もご利用いただける、お得な年間パスポートを販売しています。奄美の郷受付にてお申し込み下さい。お申し込みいただいた全員に奄美パークグッズをプレゼント、また年6回来館された方には一村記念グッズをプレゼントいたします。

公式 SNS | Social Networking Service

#鹿児島県奄美パーク #田中一村記念美術館

@amamipark



鹿児島県奄美パーク



@amamipark



@isson_tanaka



田中一村記念美術館



@TANAKAISSON



鹿児島県奄美パークだより vol.26

[発行] 鹿児島県奄美パーク [発行日] 2023年3月10日

〒894-0504 鹿児島県奄美市笠利町節田 1834

TEL : 0997-55-2333 FAX : 0997-55-2612



[公式サイト] <http://amamipark.com/>